

授業科目名	近代装飾デザイン史 <i>Histry of Modern Ornamental Design</i>	担当教員名	天貝 義教
時間割	月曜日 1 時限	オフィスアワー	
授業科目区分	専門科目—専門共通科目—美術理論・美術史科目		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	3・4年次前期	単位数	2 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目 「デザイン史」「近代装飾デザイン史」「近代デザイン史特講義」と内容が関連している。			
授業に関連するキーワード 各回の表題を参照			
授業の到達目標及びテーマ この授業では、デザインにおいて形態とともに重要な意味を持つ装飾についての歴史的な意義を学び、今日における装飾の創作の意味について理解を深めることを目的とする。			
授業の概要 19世紀後半から20世紀前半までのヨーロッパにおける主要な芸術論にみられる装飾の意義を応用美術の観点から講述し、ラスキン独自の経済概念についても考察する。			
<b>授業計画</b> 第1回 はじめに 19世紀後半のヨーロッパ装飾論 第2回 歴史主義的装飾論 第3回 アール・ヌーヴォーの有機的装飾論 第4回 オットー・ヴァグナーの近代建築論における装飾の意義 第5回 ヘルマン・ムテジウスの工芸論における装飾の意義 第6回 20世紀前半の装飾論(1) アドルフ・ロースの装飾否定論 第7回 20世紀前半の装飾論(2) ル・コルビュジェの装飾芸術論 第8回 ラスキンの芸術論における装飾の意義 『近代画家論』『風景の真理と倫理』 第9回 『建築の七灯』『ビルディングとアーキテクチャ』 第10回 『ヴェニス石』 『ゴシックの本質』 第11回 『芸術経済論』『実用と装飾の二大目的』 第12回 『この最後の者にも』『最大多数の高潔にして幸福な人間』 第13回 『ごまとゆり』『王侯の宝庫』『王妃の庭園』 第14回 『フォルス・クラヴィゲラ』 『きれいな空気と水と大地』 第15回 まとめ			
<b>授業時間外の学習内容等</b> 各回の授業計画を参考にして予習と復習をおこない、講義内容の理解を深めることが必要である。			
<b>評価方法</b> 授業への取組み(40%)、レポート(60%)を基本に総合的に評価し、60点以上を単位認定要件とする。			
<b>履修上の注意</b> 教科書ならびに参考書を熟読し、専門用語(日本語ならびに外国語)について理解を深めておくことが必要である。			
<b>テキスト</b> デザイン史フォーラム編『近代工芸運動とデザイン史』思文閣出版			
<b>参考書・参考資料等</b> ラスキン著『建築の七灯』岩波文庫版、モリス著『ゴシックの本質』みすず書房。その他の参考文献は授業において適宜紹介する。			

授業科目名	日本建築史1 History of Japanese Architecture 1	担当教員名	澤田 享
時間割	月曜日 2 時限	オフィスアワー	
授業科目区分	専門科目－専門共通科目－美術理論・美術史科目		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	2・3 年次前期	単位数	2 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目 特になし			
授業に関連するキーワード 古建築の構造、様式（古代～中世）			
授業の到達目標及びテーマ 古代から中世までを通して、主としてわが国の建築を歴史的に理解する。 建築の歴史を基礎知識として身に付けるとともに、それ等を正しく人に伝えることができるようになること。 ・テーマ 日本伝統建築 文化財としての建築			
授業の概要 古代から中世までを通して、わが国の建築の歴史的な理解を深める。すなわち古代 1：先史/仏教建築の導入とその技術・技法。古代 2：寺院建築の技法/平城京・地方官衙（秋田市を含む）。古代 3：寺院・神社の多様化（特に様式についても触れる）。中世 1：中世における建築様式の流れ。中世 2：中国からの新様式の輸入（天竺様・唐様）の導入および和様の展開。中世 3：折衷様の発生。中世 4：中世社寺建築の技法と意匠。等について歴史的かつ様式の変化について学ぶ。			
授業計画 第 1 回 古代 1：先史建築の発生と発達の要因（縄文、弥生時代の建築） 第 2 回 古代 2：神社建築の成立/神社の起源、神殿の形式 第 3 回 古代 3：飛鳥・奈良時代の寺院建築/法隆寺、奈良時代の寺院建築の様式 第 4 回 古代 4：都城の制/都城の建設、都城の制、中国の都城と日本の都 第 5 回 古代 5：平安時代の寺院建築/密教の伝来と密教建築、浄土教の寺院建築 第 6 回 古代 6：神社建築の発展/奈良時代の神社建築から平安時代の神社建築 第 7 回 古代 7：古代の住宅建築/宮殿、古代の住宅様式/庶民の住宅 第 8 回 中世 1：中世における建築様式の流れ/建築界の動向と建築様式、構造 第 9 回 中世 2：中国からの新様式の導入 1/天竺様(大仏様)建築 第 10 回 中世 3：中国からの新様式の導入 2/禅宗の伝来と唐様(禅宗様)建築、伽藍の制について 第 11 回 中世 4：和様と新様式の混合(折衷様)の出現と展開 第 12 回 中世 5：中世社寺建築の技法と意匠 第 13 回 中世 6：中世の住宅建築/中世の住宅様式/庭園建築/庶民の住宅 第 14 回 中世 7：社寺建築の細部意匠の特徴 第 15 回 まとめ (定期試験)			
授業時間外の学習内容等 授業で習ったこと、配付された資料をもとに復習を行っておくこと。			
評価方法 小レポート 20%、本レポート 80%で評価し、100 点満点で 60 点以上を単位認定とする。			
履修上の注意 テキストは毎回必ず持参すること。			
テキスト コンパクト版 建築史[日本・西洋] 彰国社 3,240 円、日本建築史図集 彰国社 2,700 円、自作プリント (適宜)			
参考書・参考資料等			

授業科目名	日本彫刻史 <i>Japan sculpture History</i>	担当教員名	井上 豪
時間割	水曜日 3 時限	オフィスアワー	
授業科目区分	専門科目－専門共通科目－美術理論・美術史科目		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	2・3 年次前期	単位数	2 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目 「美術理論・美術史」「日本美術史」「東北造形史」と一部内容が関連する			
授業に関連するキーワード 仏像 日本史			
授業の到達目標及びテーマ 仏教彫刻を中心に日本彫刻史の流れを概観する。飛鳥時代の仏教受容に始まる日本の仏教美術は、大陸の先進文化を吸収しながら常に時代の先端として古代美術の世界を牽引してきた。本講座では日本を代表する名品について理解を深め、同時に宗教彫刻が表現する「時代の精神」について学びたい。様々な角度から総合的な彫刻史の理解を目指すのが目標である。			
授業の概要 主に仏教美術の受容期と定着期に目を向け、仏像の名品を解説する。古代美術はどのように受容され日本の中でのような流れを生んできたのか。スライドで作例の特徴を観察し、同時に文献資料などから制作事情や伝来など作例の背景を考えながら、時代の空気と不可分な仏像の表現を立体的に学んでいきたい。			
授業計画 第1回：序・仏教美術と宮廷美術 第2回：仏像の見方 第3回：仏教伝来と飛鳥寺の造営 第4回：法隆寺釈迦三尊像とその周辺～飛鳥止利様式 第5回：法隆寺四十八体仏と白鳳様式論 第6回：山田寺仏頭～国家官寺の時代 第7回：薬師寺聖観音像と薬師三尊像～白鳳から天平へ 第8回：東大寺大仏とその周辺 第9回：法華堂と戒壇院 第10回：興福寺・阿修羅像と八部衆十大弟子 第11回：唐招提寺と一木造 第12回：東寺講堂と密教彫刻 第13回：寄木造と定朝様式 第14回：運慶・快慶と鎌倉美術 第15回：まとめ			
授業時間外の学習内容等 図書館蔵書等の資料を読むことで授業を振り返り、理解を深める。			
評価方法 試験の成績に授業態度を加味し、授業への取り組み 20%、試験成績 80%として採点する。単位認定要件は 100 点満点で 60 点以上とする。			
履修上の注意 講義は一回完結の「読み切り」形式で進める。欠席しても次回の講義に支障は出ないが、欠席した回の内容は取り返しが利かないので注意されたい。			
テキスト 内容に応じ毎回資料を作成、配付する。書籍等のテキストは使用しない。			
参考書・参考資料等 必要に応じ講義の中で紹介する。			

授業科目名	東洋美術史 <i>Oriental Art History</i>	担当教員名	井上 豪
時間割	木曜日 5 時限	オフィスアワー	
授業科目区分	専門科目－専門共通科目－美術理論・美術史科目		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	1・2 年次前期	単位数	2 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目			
授業に関連するキーワード 中国 古代美術 遺跡 古代文化			
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 中国の古代美術を概観する。数千年の歴史をもつ中国美術は時代と共に姿を変え、周辺民族とともにアジア文化の基層を形作ってきた。古代作品の数々は、我々の「失われた原点」をそのまま体現した貴重な遺産といえよう。 本講座ではスライドによる作品紹介と共に、文献や考古資料を用いた文化史的背景の考察も重視する。各時代特有の美術表現と、それを生んだ古代社会の風土や社会の在り方を学び、美術表現の持つ「世界観」についての理解を目指したい。			
<b>授業の概要</b> 中国の古代美術を年代順に取り上げ個別に紹介する。スライドや配付資料を用いた作品解説だけでなく、考古学の知見に基づく遺跡の概要や文学史・哲学史から見た当時の文化的背景の考察なども重視、総合的な見地から美術表現とは何かを考えていきたい。			
<b>授業計画</b> 第 1 回 序～古代美術と現代社会 第 2 回 殷周青銅器 第 3 回 三星堆遺跡と長江文明 第 4 回 曾侯乙墓 第 5 回 始皇帝陵 第 6 回 兵馬俑坑 第 7 回 馬王堆漢墓 第 8 回 馬王堆帛画 第 9 回 満城漢墓 第 10 回 龍と雲気文 第 11 回 魏晋南北朝の書画 第 12 回 唐代壁画古墳 第 13 回 法門寺の宝物 第 14 回 宋代絵画の展開 第 15 回 まとめ			
<b>授業時間外の学習内容等</b> 図書館蔵書等の資料を読むことで授業を振り返り、理解を深める。			
<b>評価方法</b> 試験の成績に授業態度を加味し、授業への取り組み 20%、試験成績 80%として採点する。単位認定要件は 100 点満点で 60 点以上とする。			
<b>履修上の注意</b> 講義は一回完結の「読み切り」形式で進める。欠席しても次回の講義に支障は出ないが、欠席した回の内容は取り返しが利かないので注意されたい。			
<b>テキスト</b> 内容に応じ毎回資料を作成、配付する。書籍等のテキストは使用しない。			
<b>参考書・参考資料等</b> 必要に応じ講義の中で紹介する。			

授業科目名	シルクロード図像学1 <i>Silk Road Iconography 1</i>	担当教員名	井上 豪
時間割	金曜日 1 時限	オフィスアワー	
授業科目区分	専門科目－専門共通科目－美術理論・美術史科目		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	3・4年次前期	単位数	2単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目 「美術理論・美術史」と一部内容が関連している。			
授業に関連するキーワード シルクロード 仏教美術			
授業の到達目標及びテーマ 東西文明の行き交う絹の道は、インドから東アジアへ向かう仏教美術の道としても重要である。古代シルクロードの美術は、インドをはじめペルシアや西洋など様々な要素が混じり合い、それらが渾然一体となって独特の世界観を形作ってきた。本講座では仏教美術を中心にガンダーラから中央アジアにかけて作例を取り上げ、ペルシアやギリシアなど各地の遺品にその源流を辿りながら図像変遷の過程を追っていく。広大なユーラシア大陸を舞台に展開した、壮大な文化交流の姿について解説する。			
授業の概要 仏教美術に見られる様々なモチーフを毎回取り上げて解説し、図像バリエーションとその意味について考察する。スライドを用いた図像観察と配付資料による文化的考察を並行し、多角的視点から古代美術を捉えていきたい。			
授業計画 第1回 ガイダンス 第2回 ストーパーパから五重塔へ 第3回 如来の服制と僧侶の袈裟 第4回 菩薩の宝冠 第5回 神将の甲冑 第6回 執金剛神の図像 第7回 邪鬼と崑崙奴 第8回 飛天の姿 第9回 極楽のイメージ 第10回 須弥山と崑崙山 第11回 風神の色々 第12回 仏教における龍のイメージ 第13回 如意宝珠の形象 第14回 仏足跡と瑞像図 第15回 まとめ			
授業時間外の学習内容等 図書館蔵書等の資料を読むことで授業を振り返り、理解を深める。			
評価方法 試験の成績に授業態度を加味し、授業への取り組み 20%、試験成績 80%として採点する。単位認定要件は 100 点満点で 60 点以上とする。			
履修上の注意 講義は一回完結の「読み切り」形式で進める。欠席しても次回の講義に支障は出ないが、欠席した回の内容は取り返しが利かないので注意されたい。			
テキスト 内容に応じ毎回資料を作成、配付する。書籍等のテキストは使用しない。			
参考書・参考資料等 必要に応じ講義の中で紹介する。			

授業科目名	デザイン史特講 <i>History of Design (Special Lecture)</i>	担当教員名	天貝 義教
時間割	金曜日 3 時限	オフィスアワー	
授業科目区分	専門科目—専門共通科目—美術理論・美術史科目		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	2・3年次前期	単位数	2 単位
密接に関係する授業科目 「デザイン史」「近代装飾デザイン史」「近代デザイン史特講義」と内容が関連している。と内容が関連している。			
授業に関連するキーワード 各回の表題を参照			
授業の到達目標及びテーマ この授業では、日本とヨーロッパとのデザイン交流についての基礎的な知識を身につけるとともに、今日におけるデザイン活動についての国際的視野を広げることを目的とする。			
授業の概要 明治維新から第二次世界大戦後までの日本とヨーロッパのデザイン交流の今日的意義について、主要な万国博覧会への参同とヨーロッパへの留学生の派遣を手がかりにしながら講述する。			
<b>授業計画</b> 第1回 はじめに 文明開化と殖産興業のもとでの応用美術の振興 第2回 ウィーン万国博覧会プログラムと日本語「美術」 第3回 ウィーン応用美術博物館について 第4回 ウィーン応用美術大学について 第5回 平山英三のウィーン留学 第6回 平山英三と松岡寿の工業意匠概念 汎美的意匠概念 第7回 日本におけるアール・ヌーヴォーとセセッションの流行 第8回 安田禄造のウィーン留学 経済的工芸概念 第9回 東京高等工芸学校教員のヨーロッパ留学 第10回 アーツ・アンド・クラフツ運動 『民衆の芸術』 第11回 アーツ・アンド・クラフツ運動 『ユートピアだより』 第12回 ドイツ工作連盟と工房運動 第13回 民芸と産業工芸 第14回 第二次大戦後の日本におけるモダン・デザインの理念 第15回 まとめ			
授業時間外の学習内容等 各回の授業計画を参考にして予習と復習をおこない、講義内容の理解を深めることが必要である。			
評価方法 授業への取組み(40%)、レポート(60%)を基本に総合的に評価し、60 点以上を単位認定要件とする。			
履修上の注意 教科書ならびに参考書を熟読し、専門用語（日本語ならびに外国語）について理解を深めておくことが必要である。			
テキスト デザイン史フォーラム編『国際デザイン史』思文閣出版			
参考書・参考資料等 ウィリアム・モリス著『民衆の芸術』岩波文庫ならびに同著『ユートピアだより』岩波文庫版。その他授業において適宜紹介する。			

授業科目名	近代建築史 <i>History of Modern Architecture</i>	担当教員名	澤田 享
時間割	金曜日 3 時限	オフィスアワー	
授業科目区分	専門科目－専門共通科目－美術理論・美術史科目		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	3・4年次前期	単位数	2 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目 特になし			
授業に関連するキーワード 構造、様式、その時代的変遷			
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 19 世紀後半の日本においては、洋風化が近代と同じ意味をもっていたので、建築にあっても洋風建築技術の輸入と普及が第 1 の目的となり、建築界もそれに沿って、近代建築へ移っていった。その様相について論じ、また日本近代建築の基礎になった欧米近代建築等についても併せて解説する。 ・テーマ 洋風建築と技術 日本の風土的条件に適した建築 欧米の近代建築の様式			
<b>授業の概要</b> 日本の近代建築は西欧化の時代、新技術と思想の導入、近代化の時代の 3 要素から成立する。したがって(1)産業革命と洋風化、(2)洋風建築の伝来と外国人技師の活動、(3)コンドルの来日と日本人建築家の育成、新構法の導入と日本人建築家の育成、(4)新構法の導入と耐震構造の工夫、(5)西欧近代建築思潮の影響、(6)分離派建築会、(7)関東大震災後の公共施設、(8)～(15)については日本近代建築の基礎となった欧米での主要な建築運動・様式などについて解説する。			
<b>授業計画</b> 第 1 回 建築構造の成り立ち (伝統工法と西洋工法の概説) 第 2 回 産業革命と洋風建築 第 3 回 お雇い外国人の建築 第 4 回 日本人建築家の誕生と建築 第 5 回 耐震建築構造とその発展 第 6 回 近代建築思潮と国際建築様式の展開 第 7 回 国民的様式の追求と様式の相対化 第 8 回 アーツ・アンド・クラフツ運動 第 9 回 世紀末の装飾芸術 アールヌーヴォー 第 10 回 芸術の革新 ウィーン・ゼツェション/ドイツ表現主義 第 11 回 前衛としての建築 ロシア構成主義/デ・ステイール 第 12 回 有機的建築 フランク・ロイド・ライト 第 13 回 建築の詩学 ル・コルビュジエ 第 14 回 Less is More ミース・ファン・デル・ローエ 第 15 回 まとめ (定期試験)			
<b>授業時間外の学習内容等</b> 授業で習ったこと、配付された資料にて復習を行っておくこと。			
<b>評価方法</b> 定期試験 80%、レポート 20%で評価し、100 点満点で 60 点以上を単位認定とする。			
<b>履修上の注意</b> テキストは必ず持参すること。また、適宜自作プリントを配布する			
<b>テキスト</b> コンパクト版 建築史[日本・西洋] 彰国社 3,240 円(日本建築史 I 等で購入済みの場合は購入不要)、近代建築史図集 彰国社 2,484 円、自作プリント (適宜配布)			
<b>参考書・参考資料等</b>			

授業科目名	美術理論・美術史 <i>Art Theory and History</i>	担当教員名	天貝 義教 (1回～8回) 井上 豪 (9回～15回)
時間割	金曜日 4時限	オフィスアワー	
授業科目区分	専門科目—専門共通科目—美術理論・美術史科目		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	1年次前期	単位数	2単位
密接に関係する授業科目 「東洋美術史」「西洋美術史」「日本美術史」「デザイン史」「近代絵画史」「日本建築史」と内容が関連している。			
授業に関連するキーワード 授業計画の各回の表題を参照			
授業の到達目標及びテーマ 人間に固有の美術の基礎概念を理解するとともに、日本をふくむ東洋と西洋における美術創作の歴史を学ぶことによって、美術についての基礎的な知識を身につけることを目指す。			
授業の概要 美術とは何か、美術の歴史とはなにか、という基本的な問題について、平易に解説する。古代ギリシアから20世紀のモダン・アートにいたる西洋美術の様式変遷と日本をふくむ東洋美術の様式変遷を概説する。			
授業計画 第1回 美術 (Fine Arts, Schöne Künste, Belle arti, Beaux arts) の基礎概念について (1) 第2回 美術 (Fine Arts, Schöne Künste, Belle arti, Beaux arts) の基礎概念について (2) 第3回 古代 (エーゲ海文明・ギリシア・古代ローマ) 第4回 中世 (ビザンチンとゴシック) 第5回 ルネサンス 第6回 バロック 第7回 古典主義・新古典主義・歴史主義 第8回 まとめ (19世紀末・20世紀のモダン・アート) 第9回 古代インドのストゥーパ浮彫 第10回 ガンダーラ美術 第11回 シルクロードの仏教美術 第12回 中国初期仏教美術 第13回 河西回廊の石窟美術 第14回 雲岡石窟と龍門石窟 第15回 まとめ			
授業時間外の学習内容等 授業中に配布する資料をつかい予習と復習をおこなって講義内容の理解を深める。			
評価方法 授業への取組み(40%)、レポート(60%)を基本に総合的に評価し、60点以上を単位認定要件とする。			
履修上の注意 教員免許状取得のための必修科目。			
テキスト 特に定めない。			
参考書・参考資料等 授業において適宜紹介する。			